

桜中だより

長崎市立
桜馬場中学校
校長 大塚 潤

「個が生きる」「個を生きる」「絆中を目指します」

ひとりになれる ひとつになれる
く打ち込め 粘れ欲を出せ

学校は順調にスタートし、すでにフル回転。生徒たちは生き生きと学校生活を送っています。

今年度、本校は次のような方針で教育活動を展開します。

「ひとりひとりの生徒の成長のために」「桜中が保護者や地域の期待に十分に応えることのできる学校となるために」「この目的意識を失うことなく学校経営にあたります。」

また、本校の教育目標「国際社会に生きるよき日本人」となるために、ま

ちを知り、人を知り、文化や歴史を誇らしげに語る

ことができる生徒を育てます。

「誰一人取り残すことなく」「この一心で学校経営を行います。」

「ひとりひとりの生徒の成長のために」「桜中が保護者や地域の期待に十分に応えることのできる学校となるために」「この目的意識を失うことなく学校経営にあたります。」

また、本校の教育目標「国際社会に生きるよき日本人」となるために、ま

ちを知り、人を知り、文化や歴史を誇らしげに語る

ことができる生徒を育てます。

「誰一人取り残すことなく」「この一心で学校経営を行います。」



愛情いっぱいのお弁当、おいしいなあ

- 目指す生徒像■
- 目標達成に向け、強い意志を持って挑戦する生徒
- 言葉を大切にし、互いを認め、励まし合える生徒
- 課題を発見・解決しながら、新たな価値を創造できる生徒
- 地域の文化を誇り、ふるさとに貢献しようとする生徒

学年経営方針

一学年

「正しい習慣を身に付けよう」

私達の生活には、習慣として行っていることがたくさんあります。どうすれば正しい習慣が身に付くのか？それは、繰り返すこと。繰り返すことでその習慣が身に付いていきます。時と場に応じて、た言動や正しい行動など、たくさんの方がよい習慣が身に付くことで、それが無意識の言動として表れ、その人の生活を支えていくこととなります。

「互いに認め合い、高め合う仲間になろう」

人権感覚を大切にする環境づくりを行います。冷やかしゃやからかい、悪口や暴力などのいじめがないことはもちろんですが、一人一人が平等な立場で、言いたいことが言え、やりたいことが自由にできる環境が大切です。まずは、生徒たちに、「自分のもの・場所・時間」と「他人のもの・場所・時間」の区別を確実にできるように導きたいと思えます。

互いの存在を、人権をもつひとりの人間として、認め合うこと、そして仲間と協働してよりよい学級と学年を創っていくことを目指して、成長してほしいと願っています。

一学年

「好きなことだけ、楽しければ、自分さえ良ければ」からの脱却

「考えて動く」力を育みたい。

◆具体的には「思いやり」の気持ちを大切に育む。

◆「思いやり」の気持ちを大切に育む。

◆「思いやり」の気持ちを大切に育む。

◆「思いやり」の気持ちを大切に育む。

「時は金なり」

考動力！



本校HPのQRコード

三学年

「挑戦 努力 互いの夢を語り合おう」桜咲く15の春へ

この2年間、学級委員を中心に毎週の定例会、定期的な学年集会を企画、また、専門部長が自分たちの手で専門部活動を充実させ、教師ではなく、実行委員など生徒が表舞台に立ち、行事を運営してきました。昨年の3学期



ふれあい広場のネモフィラ、とってもきれいです

からは、新体制となった生徒会役員が動き出し、ますます期待したいところです。

授業がやりやすく、様々な可能性を感じさせる3年生の生徒たちですが、歴代の先輩方と比べて、今一步、はじけ出す元氣や積極性に欠けるところが課題です。もう一つの課題は学習に対する貪欲さ。希望する進路を実現させるためにも求められるところです。

ました。ぜひ、努力を重ね、希望する高校に進学してもらいたいと願っています。

また、学級・学年の横のつながりが受験・卒業へ向けて独り立ちする生徒の支えになると考えます。今までの2年間の学びが、今度は生徒どうしの本物の絆となるよう願って、「互いの夢を語り合おう」を掲げました。自分の受験する高校を堂々と人前で語り、それを応援する学年づくりを目指します。

◆1学期

スタート！駆け足で進

む。「互いを知る」

◆2学期

歌声に感動を求め、受験へ切り替え「互いを認める」

◆3学期

あきらめない心 誰一人置き去りにしない「互いを応援する」「友の成功を自分の喜びに」

誰一人置き去りにしないために、子供たちへの丁寧な関わりを心がけます。一人一人にしっかりと寄り添いたいと思います。そのために、家庭訪問・電話連絡を行います。

校則の見直し

「校則」とは、子どもの発達段階や学校、地域の状況、時代の変化等を踏まえて、学校が教育目的を実現していく過程において、子どもが遵守すべき学習上・生活上の規律です。

そこで、今年度、本校においても次の理念のもと、見直しを行ったところであります。本校のHPにも掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

1学期学級委員

1年1組	坂口 幹太	井手口 知世
1年2組	小森晃 志郎	堀切 夏那
1年3組	池田 侑生	高比良 心結
1年4組	中島 光悠	内田 陽菜
2年1組	松崎 一磨	古川美咲 葵
2年2組	石井 友亮	櫻本 美優
2年3組	山本 旺	花田ふじ子
2年4組	濱崎 幾麻	石橋 晴花
3年1組	福本 涼太	小野 彩音
3年2組	手塚 珠幹	牛嶋 莉里愛
3年3組	林田 郁人	坂本 光咲
3年4組	松本 守生	山城 優空

どの学級も「自分の学級が一番いい」と思える学級づくりをしてください。

学級というのは、自分にとって、自分だけではなく、すべてのクラスメイトにとって、居心地のいい場所、自分の力を伸ばしてくれる場所、新しい自分に気づかせてくれる場所であればなりません。

皆さんの活躍に期待しています。

- 1 校則の意義・ねらい
① 社会通念(社会の常識)を学ぶ。
② 安心して活動(学習・学校行事・部活動等)に取り組みことができる。(人間関係を築く)
③ ルールを守る態度や人を思いやる心を育てる。
- ◆ しなければならないことは、したくなくてもする
◆ してはならないことは、したくてもしない
◆ したほうがいいと思うことは、どんどんする
- 2 見直しの要点
① 生徒の人權を尊重する(守る)ものであること
② 生徒の主體的な行動を促すものであること
③ 社会通念に照らして、

自分で自分を褒める 自分で自分を叱る

マラソン選手だった有森 裕子さんが「自分で自分を褒めてあげたい」と、インタビューで言われたことを今でも覚えています。「本当によくやった」という満足感が満ちあふれる言葉だと思えます。

私達は、他人から褒められたり、叱られたりする前に、まず、自分で自分を褒めることができるか、そして自分で自分を叱ることができるか、ということも考えてみたいと思います。他人はどうあれ、自分はどう思っているのか。「自分は自分の主人公だから。」

合理的な範囲のものであること。(時代と共に変化。絶えず見直し)

3 「リセプト」
国際社会に生きる良き日本人となるように、TPOにふさわしい行動を自ら考え実行する桜中生

あとがき
学校の情報や生徒たちの様子をお知らせし、地域に開かれた学校を目指します。

学校ではわからない、子どもたちの家庭や地域での頑張りと、情報をお待ちしております。